

資格取得（技術士）体験記

高速道路室 主任主査 和知 聡

1 はじめに

本協会調査部から資格取得体験記執筆のご依頼を受けたものの、果たして私の体験記で誰が感銘?!を受け、資格取得への意欲を喚起されるのか、疑問を持ちながらの投稿となりました。ある主題で文章を考えれば、何らかのストーリーが浮かぶものですが、今回のご依頼については全く思い浮かぶものがない状態。非常に悩まされました。

そんな状況下において、会員の皆様の中には、既に取得され更に他部門も…という方から、全く取得を考えてもいない方まで幅広いものと思われそうですが、今回の投稿は、現在取得に向けて努力されている方ではなく、全く取得を考えていないという会員の方をターゲットにさせていただこうと思います。

私は合格テクニックを持ち合わせているわけでもなく、また、そのようなテクニックは得意な方にお任せするのが得策と考え、本協会の技術力向上のためには、取得意欲のある会員の増加によるボトムアップを図るのが先決と思ったものです。

2 資格取得に取り組むことの意義と動機付け

（監督員に資格要件がない）

ご承知のとおり、役所が発注する工事等の監督員には、国家資格等の要件がないが故に、行政職職員が資格取得に対して何に意義を見出すか？これが最も資格取得に対する動機付けの大きな壁になっているのではないのでしょうか？私は、福島県入庁前の民間会社において、工事受注のための監理技術者を確保するという業務上の必要性に迫られ、入社後に一級土木施工管理技士を取得しました。この時の動機付けは明確です。

しかし、役所に入ってからというところ、新規採用時から監督員を命ぜられても、監督員には資格要件がない。そのような状況下において、資格取得に明確な動機付けを見出すことは容易いことでは無いはずですし、また、資格取得には私もどちらかというところ否定的な立場でした。

（受験の動機は「ただなんとなく…」）

周りを見渡せば、福島県は技術士試験の受験を考えている職員が比較的多いようで、また他県と比べても取得者が多いのは事実のようです。では、なにゆえそのような方々は、目的を見いだせたのか、または見いだしたのか疑問視していましたが、ある上司からの一言がきっかけで、受験申し込みをするに至りました。私の場合は、そのような環境がそうさせたという、ただそれだけです。何か行動を起こすに至る動機付けには、深い意味を考へることなく、まずやってみることも必要なのではないのでしょうか？初めの一步は、「ただなんとなく…」でも良いのではないのでしょうか？

（受験勉強で見えてきたこと）

受験に向けた勉強の中で、取得動機が後から付いてきたという、いわば私は後発型です。土木全般に対する理解はある程度の自負もありましたが、受験勉強を続けていくに従って、逆に土木全般に係る総合力の面でどうかという疑問も湧いてきました。1次試験及び2次試験と勉強を重ねて行く毎に、自分の不足する知識の欠如部分が見出されてきます。試験

勉強の経験のある方は、このような感覚を憶えたのではないのでしょうか。この点に関しては共感していただけるのではないかと思います。一定程度の業務経験を重ねた方は、是非この技術士試験をキッカケとして、自分自身の土木全般に対する理解と専門とする分野の技術に対する体系整理を図ることが出来るはずです。

またそれと同時に、ある問題事象を解決するための、的確とは言えないまでも、より適切な論点整理や思考方法が身につくようになるのではないかと思います。試験勉強における論文作成においては、課題は何か、問題点は何か、それらに対してどのようなアプローチをし、どのような提案をしたか等々、常に考えるようになるからだと思います。これらからもたらされる考える癖は、第三者に対するプレゼンテーションや問題解決に至るクリティカルパスを導く上で有効な感覚となり得ます。第三者に理解を得ることは非常に苦勞しますが、分かりやすい説明というのは話の展開が重要ですので、それに気をかけながらの思考が必然的に身に付くようになります。

3 勉強法

前述のとおり、私は合格へのテクニックは持ち合わせていません。いろいろな勉強法があつてしかるべきだと考えますし、適切な受講講座等もありますので、それらを自分なりの判断で取捨選択することが必要なのだと、今も考えています。

でありますので、ここでは、それらのテクニック的な内容ではなく、長期間にわたる受験勉強から必要と感じた勉強法を列挙させていただきます。

(建設部門の全容把握)

建設部門が置かれている状況把握には、言わずと知れた「国土交通白書」に尽きます。白書を隅々まで何度も読み込むことで、建設部門の全容が把握出来ます。まずは白書を何度も読み込むことが必要でしょう。

また、選択科目の関係する国の審議会等の情報をHP等から入手し、自身の選択科目に対する理解度を補強し、試験への対策を取ることが必須かと思えます。

(「書くこと」の練習)

企画書であるとか設計変更の理由書であるとか、常日頃パソコンで文章構成を考えると多いいのではないのでしょうか。しかし、筆記試験は定型用紙に手書きで記述しなくてはなりません。日常パソコンで活用しているカット＆ペーストは、本番では出来ないのは勿論のこと、一定量の文章をただ消しゴムで消す作業にも時間を浪費してしまいますし、いざ本番の論述の際にこれをやってしまったら、時間がなくなり論文は結論まで書けなかった、という結果にしかありません。

実際に文字を書くことが重要で、書く前に文章構成や展開を決め、論理的に記述するには慣れが必要です。一世代前の先輩方にはお叱りを受けるようなことですが、私にとってもこれが困難を極めたように感じました。

(第3者の視点からの文章の推敲)

よく言われることですが、論文を既取得者に見てもらうことが効率的だと思います。見ていただく方にはご迷惑をお掛けするとは思いますが…。文章に対して、私は強いコンプレックスを持っていますので、稚拙な文章を諸先輩方に見てもらうことに躊躇いが大きく、最後まで誰にも見ていただくことはありませんでした。

しかし、その対策として私が取った方法は、その客観的な評価のために、時間を置いて推敲することで対応しました。試験勉強での論文に限らず、夜遅い時間に仕事で作成した

文章や企画は、往々にして強い主観で作成してしまうことが多いものです。次の日に推敲することで、自分自身でも冷静な判断または評価が下せるものと私は考えます。

(思い込みも重要)

私は2回目の受験で取得に至りましたが、取得の前年度は、申し込みはしたものの仕事関係の行事と重複し受験を断念しました。この悔しさを契機として、次年度は「合格する」と決め込んでいました。しかし、その次年度はというと、東日本大震災の直後。その様な状況下で受験している場合なのかと自問自答もしましたが、賛否あるかとは思いますが、自分を高めることは、組織を高めることに繋がると勝手に解釈しました。思い込みも重要です。

(モチベーションの維持)

公務員である以上、現職務内容と試験の選択科目が異なることは往々にしてあります。私の選択科目は道路でしたが、当時は砂防関係の業務に携わっておりましたので、日中は、急傾斜等の被災状況調査や復旧関係事業の業務をこなしていましたが、帰宅後は、道路の試験勉強をする日々を続けていました。受験勉強の後ろめたさがある中で、気持ちの切り換えが難しかったように記憶しています。

私は、そのような状況に対し、帰宅後すぐの入浴で気持ちをリセットしました。試験勉強さえなければ、一日の疲れを癒すビールを日課としていますが、そのような誘惑にも負けることなくモチベーションを持続出来たのも、合格後の自分を想像したことでしょうか。今はこのような境遇にいても、合格後には公私両面でこういうことがしたいと思い巡らせていました。モチベーションの維持には、各人で色々な方法があるかと思えます。自分なりのやり方を見いだすことも試験勉強の一環なのでしょう。

4 おわりに

ダラダラとした散文となりましたが、最後まで目を通していただき感謝申し上げます。

技術士試験の受験申し込みは、例年年度初め頃になります。私の投稿をお読みになり喚起されたという会員の方はいらっしやらないと思いますが、来春には「取り敢えず受験の申し込み」をしてみてください。取得の暁には、それ以前とは違った「何か」がもたらされるに違いありません。その「何か」を期待してみてください。

震災から2年余りをすでに経過しておりますが、今に至っても福島県はまさに「非常時」。ふくしま復興の道のりは非常に長く険しいです。復興最前線にいる技術者の一人として、福島県民のために何が出来るか。そのためには己を高める努力も必要です。資格取得の機会を活用することも、その一つの手段となるのではないのでしょうか。